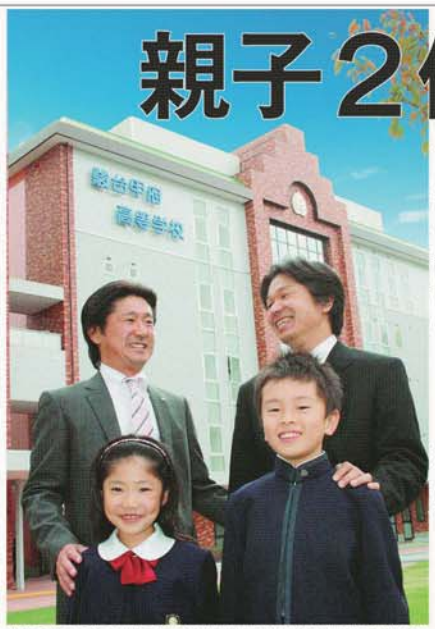
創立30周年

小中高を擁する駿河台西学園（甲府市塩部2丁目、山嶋善久理事長）は、建学の精神「愛情教育」のもと、児童・生徒のチャレンジング・スピリットをはぐくんでいる。この中、駿台グループとして県内に初めて開校した、"長男"の駿台甲府高（山口博伸校長）が今年、創立30周年を迎えた。同学園が発足したのは、ちょうど共通一次試験（現在のセンター試験の前身）が始まった1979（昭和54）年。駿高は翌80（同55）年に開校した。バブル絶頂期から、その後はしけるなど日本経済がめまぐるしく変わる中、駿台は常に先を見据えた人間教育に取り組んできた。30年の時空を経て、駿高卒業生の子どもたちが駿台の門をたたくまでになった。そんな2世代で駿台に通う親子にスポットをあてた。

親子2代、挑戦者精神培う



駿高新校舎の前で笑顔をみせる塩澤清司さん（後列右）と長男俊輔君（前列右）、淡路啓二さん（後列左）と長女桃子さん

甲府市や甲斐市で相次いで定められた「郷育の日」郷土の発展に尽力できる人材の育成、地域ぐるみで教育に取り組もうというもので、甲府青年会議所が制定を求めてきた。その根幹となったのが、2007（平成19）年9月、駿台甲府高で開かれた同会議所による「郷育フォーラム2007」だった。アワードジャパン2008グランプリも受賞した同フォーラムの仕掛け人が、同会議所50代理事長の塩澤清司さん（甲府市、末木組総括部長）と同副理事長の淡路啓二さん（市川三郷町、日医工山梨・日医調剤専務）。ともに駿台甲府高の卒業生だ。

「だからできない、ではなく、実行するにはいかに工夫するか。ないところから生み出すことを常に考えています」と5期生の塩澤さん。6期生の淡路さんも「どうすればできるのか、と考える習慣を駿高時代に植え付けてもらいました」と話す。

塩澤・淡路さん　信念の教育で普段力向上

固定概念が変わる

親の勧めもあり、大学進学を視野に駿高を選んだ2人は「入ってよかった」とロをそろえる。在校生は全国区。北海道から仲間まで、生徒は全国各地から集まってきていた。「帰国子女もいて、世界観が変わり、考え方を育ててもらったと思います」と2人。今も仲間たちとの交流は続いているという。

塩澤さんは「中学生までは固定概念の中で生きてきましたが、全国から集まった仲間にもまれて、世界は広いことを実感。各界の著名人のご子息も多かったですね。ラグビー部に入ったこともあり、伝統がないからこそ歴史をつくりたいという熱い思いもありました。文武にわたり大いに刺激を受けました」

同じ校歌を歌う喜び

淡路さんも「勉強においても自然な形で、負けてはいけない、と頑張る術を学びました。30年の時を経て、経済界にも駿高出身者が増えたことはうれしいです。より連携を深めて同窓生という『財産』を増やし、共に未来をつくっていきたいですね」と笑顔を見せる。

そんな淡路さんの長女桃子さんは駿台甲府小1年、塩澤さんの長男俊輔君は同小3年に在籍する。

淡路さんは「学校が教育に信念を持っているからでしょうが、保護者の考え方を含め、子どもたちに良い教育環境が整っていると考えて選びました。通学のため娘は朝5時半に起きていますが、誰がやらせたわけでもないのに時間を有効に使い、ピアノの練習や漢字検定のプリントなどをしています。これが、駿台の山口校長がよくいう『普段力』なのかと思い、見守っています」と目を細める。

一方、当初は公立小を視野に入れていたという塩澤さんは「通信簿などがきめ細かいというのも決め手の一つでした。きちんと教育してくれている目安にもなると考えました」と話す。少年野球にも汗を流す俊輔君は「駿高に通うのが今から楽しみです」と目を輝かせる。

「同じ校歌を歌えるのがうれしいですね」―子どもたちを見守る2人。在校生へ向けては「やるときはやる、あきらめない心をもち、やがて社会に飛び出す日を待っています」とエールを送っていた。

田辺さん　将来考えた教育に共感

田辺勝男さん（右から2人目）の駿高時代のアルバムに見入る長女桜子さん（左）と長男順平君（左から2人目）と次女梨々子さん

「うわぁ、お父さん、細い！」「格好よかったろ？」。父・田辺勝男さん（昭和町）の高校時代のアルバムを初めて見た長女桜子さん、長男順平君、次女梨々子さん頭に、順平君（駿小5年）、梨々子さん（同2年）の3人が駿台に通う。

「今の僕があるのは駿高のおかげ。僕は駿台が好きですし、誇りに思っています。駿台なら将来を見据えた教育をしてくれるだろうと確信していたので、桜子をできたばかりの駿小に入れることに抵抗はありませんでした。子どもたちには『できるだけ多くの"ガード"を持たせ、将来の選択肢を広げさせてやりたいと思い、通わせています」と話す。

母校駿台の誇り

それができるのが駿台だと、田辺さんはいう。駿台予備学校との連携はもとより、駿高には全国の教育情報が集まってくる。文武共存を提唱、小中学校期は特に健康は身を乗り出した。

田辺さんは駿台甲府高3期生。医学博士で田辺産婦人科院長となった。駿台甲府小1期生で、現在は駿台甲府中2年の桜子さんを筆頭に「一貫教育だからこそできること」だと思います。山口校長が定期的に出す学校通信『強い網』は欠かさず読んでいますが、教育者の神髄を感じ、親としても大変勉強になっています」と絶大な信頼を寄せる。

根幹は愛情教育

桜子さんは、今秋の甲府市中学校新人体育大会のテニスダブルスで3位に入った。「勉強が忙しいときもありますが、県内各地からの友達も多く、充実しています」と笑顔を見せる。順平君はサッカー、梨々子さんもテニスに励むなど、文武の両立に田辺さんは目を細める。

一方で、自らの高校生活を振り返り、あれほど楽しい時期はなかったという。「当時は男子校。男ばかりでしたが、楽しかったですね。在校生の3分の2が寮生で県外からの入学者。見た目、考え方ともにカルチャーショックでした。視野が広がりました」

しっかりと勉強し、努力すれば、目先の進学だけでなく、生徒の未来までも考えてくれるのが駿台だ、と。「まさに愛情教育でした。一層厳しい社会環境となった今も同じ。それ以上といっても過言ではありません。だからこそ、大切なわが子を預けているのです」

駿台甲府高塩部キャンパス西館。二十数年ぶりに訪れた教室は、当時の面影を残す。「懐かしいなあ。いすはちょっと違うけど、当時のままだ」。駿高6期生の近藤和也さん（市川三郷町）は、母校へ初めて連れてきた幼き"後輩"、長男の瑛志君にそう語り掛けた。

瑛志君は駿台甲府小3年生。次男も今年、同小を受験し、兄弟そろっての入学を願っている。

親子2代そろっての駿台。子どもたちを駿台に預けようと決めた理由に、近藤さんは「良き仲間に出会える場所である」ことを真っ先に挙げた。

教育環境に信頼感

「当時の駿高には県外出身の同級生が多く、東京の仲間たちとは今も会っています。生徒たちの志は高く、息子たちを入れたいと思ったのは、切磋琢磨できる良き仲間に巡り会ってほしかったからでした。全国的に教育現場が崩れている現状を耳にしますが、駿台なら大丈夫、という確信がありました」

また、駿台予備学校との連携が一層充実していることにも触れ、「当時から情報量の多さに驚きましたが、今はさまざまな連携が増えているようです。夏期講習で東京へ行くのも当たり前で、視野が広がりましたが、将来を見据えた教育環境の良さも息子たちを入学させた理由の一つです」。

瑛志君は「将来の夢はサッカー選手。いつか世界に挑戦したいです」と夢を膨らませる。

当時、近藤さんが教師たちから言われたのが「何になりたいのか。仲間ともよく意見を交わしたという。反骨精神も加わり、グローバルな視野を求めて駿高初の海外の大学へ進学。培われたチャレンジング・スピリットは今も生きる。

近藤さん　良き友との出会いの場

懐かしい教室で長男瑛志君（左）とひとときを過ごした近藤和也さん

山梨の活性化も

現在は、同町に本社を構える近藤ニットの常務を務め、地元の人たちとつくる地場産業のニットにこだわる。自社の服飾ブランド「evam eva（エヴァム・エヴァ）」も設立。直営店は首都圏、大阪に合わせて5店舗を構えるほか、来年3月には横浜駅にも6店舗目を開く予定だという。

「誰かにできるのなら、自分たちにもできる」と世界にも挑戦。そう思えたのは駿高時代の学びがあったからだと近藤さんは言う。「駿台は今、山梨の活性化にも目を向けていますが、私も直営店を通して山梨のアピールに一役買いたいと思っています」

近藤ニットのぬくもりある直営店内（大阪・北浜店）

リットをはぐくんでいくが、これは「一貫教育だからこそできること」だと思います。山口校長が定期的に出す学校通信『強い網』は欠かさず読んでいますが、教育者の神髄を感じ、親としても大変勉強になっています」と絶大な信頼を寄せる。

〈企画・制作〉山梨日日新聞社広告局

ごあいさつ

駿台甲府高等学校
普通科同窓会長
寺井　英仁

駿台甲府創立30周年
記念事業実行委員長
保坂　潤

創立30周年を迎えた現在、母校の体制と実績に郷かしさと誇りを感じます。信頼できる教育方針に始まり、前向きで力強い教職員の姿勢、その実効性は確かなものです。在籍している小中高の児童・生徒はさまざまな可能性を秘めていて、今後の活躍を大いに期待しています。

駿高の卒業生は約7千人を超え、各界での活躍も顕著に現れはじめています。同じ学舎で育ったことで「ファミリー（家族）」と称することができるなら、この力は絶大です。個々の活躍はみんなの財産ですし、ファミリーの交流が有意であることは明白です。

11月21日（土）には、駿台甲府創立30周年を祝い、記念事業を執り行うことになりました。ぜひ、ファミリーの一員として、現役生を応援するとともに、イベントにご参加いただき、旧交を深め、明日への糧としていただければ幸いです。

駿台甲府 創立30周年記念事業

2009年11月21日(土)

同窓会総会ならびに塩部キャンパス見学会
場所 駿台甲府高等学校塩部キャンパス
見学会/10:00～14:00
●新校舎見学　●写真展
●学食の開放（なつかしの駿台カレー）
●弁護士（同窓生）による無料法律相談　など
同窓会総会/11:30～

記念式典
場所 県民文化ホール
記念式典/13:00～
記念演奏会・記念講演/13:30～
●南アルプス桃源交響楽団と中高合唱部による演奏
●奈良県生駒市長　山下　真 氏講演（5期生）
●ハイチ友の会代表　小澤幸子 氏講演（11期生）など

懇親会
場所 アピオ甲府（本館）
受付/14:00～　開会/16:00～
●チャレンジング・スピリット賞授与式
●同窓生の関係する模擬店出店（14:00～18:00）
●県内名産・名物料理等の提供　●思い出の記念品展示　●大抽選会 など
会費 当日5,000円（前売り4,000円、学生2,000円）
※前売りチケットの購入方法など詳細はホームページ（URL http://www.sundai-kofu.gr.jp/）をご覧ください。

駿台甲府高等学校・普通科同窓会　甲府市塩部2-8-1　TEL055-253-6211